

鹿児島の動物38

三島の動物

黒島、硫黄島、竹島からなる三島には、この地域だけに生息する動物が何種かいます。このような地域固有の生物のことを固有種といいます。この地域の自然の成り立ちを知る上で、非常に重要な存在です。

黒島の照葉樹林の林床に生息している陸産貝類の中で、クロシマギセルやユキタノミギセル、クロシマベッコウの3種は三島の固有種です。黒島の



クロシマギセル ユキタノミギセル 照葉樹林は国の天然記念物に指定されており、スダジイやアカガシなどを中心とした豊かな森林が残されているのです。

甲殻類では、黒島と口永良部島、宇治群島の河川だけに生息するミシマサワガニ（学名 *Geothelphusa mishima*）がいます。標準和名と学名の両方に、三島の名前が入っているのです。硫黄島と竹島には分布していないことから、これらの地域では約7,300年前の鬼界ーアカホヤ噴火の影響によって絶滅し、鬼界カルデラから離れている黒島だけで生き残った



ミシマサワガニのオス

可能性が考えられます。本種は2011年に新種として報告されましたが、学術的な価値が高いことから、2013年に県天然記念物に指定されました。固有種以外にも、興味深い爬虫類が三島には生息しています。ヘリグロヒメトカゲは三島（黒島・硫黄島・竹島）が分布北限で、これより北には分布していません。面白いことに、このトカゲはトカラ列島以南の島々には分布しますが、三島より少し南に位置している口永良部島や屋久島、種子島には分布してい



ヘリグロヒメトカゲ

動物担当 池 俊人 います。なぜ、このような不連続な分布をしているのでしょうか。沖縄からトカラ列島や大隅諸島近海にかけては、巨大な暖流である黒潮が流れています。枯れ木などに潜んでいたヘリグロヒメトカゲが黒潮に流されて、偶然にも三島にたどり着き、定着することができたのでしょうか。このように、学術的にも貴重な北限のヘリグロヒメトカゲですが、生息状況についての情報が不足しており、県レッドリストでは「消滅のおそれのある地域個体群」に指定されています。

これまで述べたように、三島では特有の動物相が形成されていますが、人為的に入り込んだ動物もいます。ネズミを駆除するために、1955年には黒島にニホンイタチが移植されました。このように、元来生息していなかった地域に人為的に分布するようになった生物のことを外来種といいます。

黒島にはほかに、野生化したヤギも生息しています。同様にヤギが野生化した小笠原諸島



黒島のヤギ

の例では、植生の破壊や表土の流失、固有植物の食害などの問題が起きたため、根絶に向けての駆除作業が進められています。黒島でも、2012年から捕獲が始まったところ です。

硫黄島には、1970年代に行われたリゾート開発の際にインドクジャクが持ち込まれて、野生化しました。同様に野生化した



インドクジャク（三島村提供）

た沖縄県の離島の例では、農作物を食害したり、トカゲなどの小動物が捕食されて激減したなどの問題が起こっており、硫黄島でも住民生活や生態系への悪影響が心配されています。

県立博物館の企画展「時をきざむ三島の自然」では、動物の他にも三島の地質や植物、昆虫などを幅広く紹介していますので、是非ご来館ください。